

1. 課題の分類	分類番号	整理番号
2. 場所名	北海道立中央農業試験場	
3. 系統名	りんご新品種候補「HC15号」	

4. 育成経過

本道に適応し、早生で日持ち性のある優良な品種の育成を目標とした。北海道立中央農業試験場が、極早生品種の「マンテット」に、果肉質の優れた中生の「HAC6」を交配し、得られた実生の中から個体番号「44-23」を付して検討を行った結果、平成2年に食味が良好であることにより「HC15号」の系統番号を付けた。平成4年からは生産力検定試験及び地域適応性検定試験に供試してきた。

5. 特性の概要(対照品種「きたかみ」、参考品種「きざし」「つがる」との比較)

(1) 樹性及び形態的特性

樹姿はやや直立し、樹勢は「きたかみ」よりやや強い。葉の形は長形で、「きたかみ」より長い。花は淡桃色で、大きさは「きたかみ」よりやや大きい。

耐寒性については、適正な樹勢を維持すれば問題ないが、樹勢が強すぎる場合などは凍害が発生することがある。

(2) 生育相

発芽期～落花期まで「きたかみ」とほぼ同時期であり、「つがる」より2日程度早い。

(3) 収穫期

収穫期は9月上旬の極早生で、極早生の「きざし」より5日程度遅く、早生の「きたかみ」より2週間、「つがる」より3週間程度早い。なお、熟期は、同一樹内でもばらつきがみられる。

(4) 花芽の着生

花芽の着生は、「きたかみ」と同等に良好である。腋花芽の着生は「きたかみ」と同等にやや多い。

(5) 生理落果

早期落果はほとんどなく、収穫適期での後期落果もほとんどない。

(6) 生産性

結実樹齢に達するのは、4年生で、「きたかみ」並である。生産性は「きたかみ」と同程度に高い。

(7) 果実品質

一果重は 250～300g で、「きたかみ」や「きざし」より大きく、極早生として大果である。収穫適期の果皮の色は、地色が緑色で、陽向面が鮮紅色にわずかに着色する。果皮面のさびはこうあ部にわずかに発生する。心かび、裂果はほとんど発生しない。果肉の硬さときめは「きたかみ」と同程度であるが、肉質は「きたかみ」、「きざし」より優れる。糖度は 12.5～13.5%、酸度は 0.7g/100ml 前後とやや酸味が多いが香りが良く、夏に食べる果物としてはさわやかである。

(8) 食味

食味アンケートの結果から、外観は「きざし」と同等であるが、食味は「きざし」より優

っている。

(9) 適食期及び日持ち

収穫適期は果実の地色が 2.0～2.5 であり、この場合、室温下でも果肉が軟化しにくく、収穫直後から6～7日間が適食期間である。

(10) 交配親和性

本道で栽培される主要な品種とは交配親和性がある。また自家結実性は有していない。

(11) 耐病虫性

黒星病に対して抵抗性は有していないが、一般防除下で特に問題となる病害虫は認められない。

6. 試験成績概要

第 1 表 樹体生育、収穫、生育相、果実品質

場 所	系統名 品種名 (M26台)	樹齡 (年生)	樹体生育			収 量		果 実 品 質				
			幹周 (cm)	満開期 (月日)	収穫期 (月日)	積算収量 (kg)	平均果重 (g)	地色 (1～8)	着色 (0～10)	硬度 (ポンド)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)
中 央 農 試	HC15号	9	28.9	5.28	9.07	41.3	250	2.4	4.1	14.5	12.3	0.82
	きたかみ	9	24.3	5.31	9.22	43.4	165	3.3	9.1	12.2	12.6	0.52
	きざし つがる	19 9	- 18.9	5.31 5.31	9.03 10.03	- -	- -	4.3 -	8.2 -	14.0 -	12.7 -	0.80 -
余 市 町	HC15号	9	26.6	5.25	9.03	70.7	279	2.9	4.5	13.8	13.5	0.68
	きたかみ	9	21.2	5.25	9.17	45.8	172	3.7	9.2	12.6	12.8	0.51
	つがる	9	17.9	5.26	9.25	-	-	-	-	-	-	-
深 川 市	HC15号	9	22.2	5.25	9.05	47.2	265	3.4	7.0	14.4	13.2	0.71
	きたかみ	9	20.3	5.26	9.17	44.8	168	3.6	9.2	13.2	12.9	0.56
	つがる	9	16.2	5.26	9.28	-	-	-	-	-	-	-
北 農 試	HC15号	9	32.0	5.26	9.12	89.6	259	4.0	-	12.2	13.4	0.76
	つがる	9	19.3	5.27	10.03	-	-	-	-	-	-	-

注)樹齡、樹体生育、積算収量は平成11年の値。満開期、収穫期、平均果実、果実品質は平成8～11年の平均値。

一:欠測

地色は「ふじ」のカラーチャートによる。

第 2 表 「HC15号」収穫時の地色別果実品質
(平成11年 中央農試産の果実使用)

収穫時地色 (1～8)	着色 (0～10)	硬度 (ポンド)	糖度 (%)	酸度 (g/100ml)	特記事項
1.5	1.4	17.2	11.9	0.93	未熟感あり
2.0	2.5	17.3	12.1	0.96	
2.5	4.0	16.2	12.6	0.92	
3.0	6.0	13.0	12.6	0.83	
4.0	9.0	8.8	13.0	0.60	

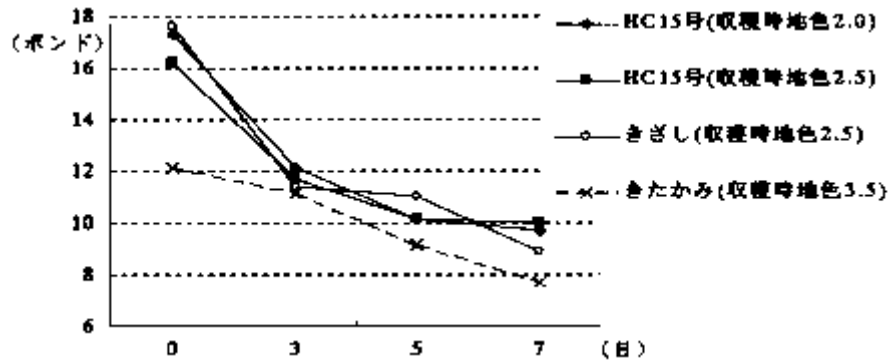
地色1.5では果実に未熟感が残る

収穫適期

地色3.0では果肉がやや軟化している

過熟

注)地色は「ふじ」のカラーチャートによる。



第1図 室温下での果実硬度の変化(平成11年 中央農試産果実)

7.普及対象地域及び普及見込み面積

全道一円、全栽培面積の約5%、約50ha

8.保有種苗

M26 台使用 9年生樹 2樹 (穂木 5kg)

9.栽培上の留意点

- (1)樹勢がやや強いため、新梢が遅伸びするような条件では凍害が発生する場合がありますので、樹勢が強くなりすぎないように努める。
- (2)同一樹内でも果実の熟期がばらつくので果実の地色 2.0~2.5 を目安にすぐ収穫をする。着色を待って収穫すると、果実が樹上で軟化し食味が低下してくるので、取り遅れないようにする。